

折 鍼 事 故

折鍼とは刺入鍼の鍼体が切断されることです。折鍼事故件数に関する統計はとられていませんので正確な事故件数は不明ですが鍼による過誤の中では、気胸に次いで発生件数が多いと言われています。本会への折鍼事故についての相談内容は、臀部または下肢で発生したものに限られていますが、他の統計をみるとさまざまな部位で発生しています。ディスプレイ鍼の普及により発生数が減少傾向にあるとの見方がありますが、折鍼事故はディスプレイ鍼・非ディスプレイ鍼を問わず発生しています。

●抜鍼時に施術者が折鍼を確認した場合

言うまでもなく利用者の体を気づかした対応が必要で、事実をしつかりと伝え、異常（痛み等）の有無に係わらず様子見をお願いするのではなく医師の検査を受けるように手配をとりましょう。

●利用者からの連絡により折鍼が発覚した場合

利用者が何らかの目的でレントゲン等の検査を受けた際に、線状金属片が確認され施術者に連絡がある場合です。最終利用から月日が経過した後連絡が来ることもあります。このような案件の中には摘出した線状金属片が腐食しており、明らかに鍼ではないものだと判明したケースもあります。

連絡を受けた際は否定も肯定もせず話を確実に聞き、摘出された異物を確認した後に判断するというスタンスで望むべきです。

☆☆☆

体内に残留した伏鍼を摘出するかしないかは利用者自身が医師と協議の上で判断するものです。基本的には「痛みを伴うかどうか」と「摘出が容易かどうか」の2つの要素を勘案して決定されます。摘出を行わないと判断された中には時間を経て自然に排出されたというケースもありますが、伏鍼は筋肉の動きによって移動することがあり臓器等に損傷を与える恐れが残ることも事実です。

折れた鍼の片方でも手元があれば、鍼のメーカーに折鍼の報告と検査を必ず依頼しましょう。これは責任をメーカーに押しつけることではなく、原因が鍼にあるかどうか確認するためです。メーカーは100%検査をしてくれますので、折鍼の際は検査依頼を対応の一つとして行ってください。検査結果によって対応の違いはあるものの、メーカーは鍼に原因があったものとして積極的にサポートをしてくれる場合があります。ただし、検査には時間を要することも念頭においてください。メーカーの話によると国内の検査機関で1~2週間、製造元が海外で検査も海外ともなれば、結果が出るまで1ヶ月以上の時間を要することもあったとのことです。

利用者に検査結果の報告を約束するのであれば、この期間を確認した上で、報告時期を伝えるようにしたいものです。

★★★

今回は鍼を対象とした内容ですが、温熱器等においても同様の事例が発生します。火傷させないことが売り文句の遠赤外線温熱器で火傷を負わせてしまったなどがこれにあたります。本会への相談では「今回は大事にいたらず安堵したが、再発が怖いので対象機器の使用を中止した」というお話をいただいたケースもあります。単に機器等の使用をやめるのではなく、事故の原因を追及することは重要です。万が一事故になった場合の対応方針を決める第一歩となるからです。

/// POINT

施術者が扱う商品や製品は大切な商売道具ですので総合的に信頼できるかどうか使用方法や使用対象者に問題がないかどうか、今一度の確認をお勧めします

/// NEWS

・施術トラブル/クレーム 対応無料電話相談・JHANEWSの発行・会員保障制度など。

ご希望の方には病気やケガで働けない時の支えとして所得補償保険を提供しています（別途保険が必要）

国家資格者
会員種別
正会員A 準会員

すべての治療家、施術家に
安心・安全を提供します
入会金無料

民間施術者
会員種別
正会員B

【ご不明な点・詳細につきましては、お気軽にお問合せ下さい】



一般社団法人 日本治療協会

URL: <http://www.jha-shugi.jp>

◎ JHANEWSのバックナンバーはホームページでご覧いただけます ◎

TEL: 03 (5289) 8171

FAX: 03 (5289) 8173

受付: 10:00 ~ 18:00 (平日)

受付: 24時間年中無休

郵送先 〒101-8691 郵便事業株式会社 神田支店 私書箱46号

E-mail: info@jha-shugi.jp